

国際関係への文化的アプローチ

日本国際政治学会編

序論 国際関係への文化的アプローチ	川村 陶子
戦間期日本における対外文化政策の「分岐」	金子 聖仁
脱植民地政策における	
パブリック・ディプロマシーの役割	尾立 要子
アメリカによるデジタル産業の自由化と統制	松本 明日香
「正しいイスラーム」を主導する	
ヨルダンの難民受入戦略	佐藤 麻理絵
欧州移民ガバナンスにおける文化的多様性	正林 朝香
在日大韓基督教会の反民族差別運動	加藤 恵美
一九八〇年代初期における「ユネスコの危機」と日本	齋川 貴嗣
一九七二年グロムイコ訪日と佐藤栄作政権	横山 雄大
カーター政権初期の	
SALT II交渉と大統領＝議会関係	瀬川 高央
〈書評論文〉	
グローバル・タックス研究の諸相	津田 久美子
複雑化する日中関係のなかの日中戦争史研究	劉 傑
歴史としての「冷戦の終わり」	志田 淳二郎
〈書評〉	
五十嵐元道著	
『戦争とデーター死者はいかに数値となったか』	西海 洋志
山本敬洋著	
『縁取られる日本：帝国主義・離島島民・人の移動、	
一八五五—一八八四年』	澤井 勇海
S・ジャイシャンカル著	
『インド流—変動する世界への戦略』	溜 和敏